

家政学方法論の整理 —— 家政学の方法論確立をめざして ——

日本福祉大非常勤 居城舜子 戸板女子短大 久保桂子
 昭和女大短大部 薮沼頼子 ○東京家政大 大森和子

目的 科学としての家政学をめざし、従来から方法論・本質論が論じられ、研究成果も多くみられる。しかし諸研究報告に対する研究方法や研究結果について、研究者の間で十分な研究討議が行なわれたとは云い難い。一方、社会に眼をむけると家庭生活の危機とも云うべき現象が多発しており、家庭生活を主たる研究対象とする家政学はこれら生活問題に対処するためにも研究方法および方法論の確実化が急務である。家庭経営学を中心として他へも視野を広げて、諸研究の方法論の整理を行ふ。

方法 家政学の方法論の整理を行ふに当り、「諸知識、諸方法の導入の状況」に照らし、明治以降について4つの時期（時期区分 1.前方法論期 2.方法論の黎明期 3.方法論混迷期 4.方法論明確化の時期）に区分した。家政学雑誌、家政学原論部会報、家庭経営学部会報、家政学原論に関する3著書を検討の資料とした。

結果 1の時期は「家」制度に抵触しない範囲での他分野の研究結果や欧米の生活様式を「生活向上に役立つ」観点から導入編成するという方法をもつている。2の時期は方法はあらわれるが現実には研究者を他分野に依存せざるを得ず、目的の異なる研究と研究方法を家政に導入した時期である。3の時期は方法論が確立されない中で隣接科学の方法・方法論が多様に導入され、研究方法と方法論が有機的関連を持ち得ない時期である。4の時期は方法論批判と目的論批判が明確化はじめ、それらにもとづいた研究が組立てられ現実の家庭生活に深くせまり、その問題点を解明し、新しい家庭生活を確立する方法を探る報告が登場する時期である。